

二〇二〇年度の春セメスターは、折からのコロナ禍で、対面で数十分お話しするような、従来のカウンセリングを行うことが難しくなっていました。しかしながら、学生たちの悩みや辛さがなくなったり、大変な思いをしませんでした。むしろ、大変な思いをしていたり、悩みを抱える学生は増えています。そこで、学生相談室

では、これまでも受け付けていた電話相談に加えて、オンライン相談や、そしてメール相談を受け付けることにしました。ここで具体的な相談内容をご紹介します。相談内容にはいきませんが、学生たちのメール相談での文章表現の素晴らしさは、とても印象に残っています。

文章にするとということは、声で発すること以上に、自分自身の考え、思いをまとめることが必要になります。文章で伝える場合、ある一言を選ぶのに、どれだけの時間をかけるかは、ほぼ自由です。極端に言えば、一言に一時間ずつ考え、文章を紡ぎ出しても、対

面で会話している時のように、相手を待たせることはありません。その分、自分自身の悩みや考えにじっくりと対峙することになるのです。リアルタイムのやり取りを基本にした電話相談やオンライン相談にはない特徴です。そもそも、誰かの文章を読むという行為自体、自己と向き合った記録を読む、という側面があるのかもしれない。その点では、二松学舎の多くの学生は、文学などを通して、文章で自己表現すること、そして読み解くことになじみがあるのでしょう。同時に、文章での相談は、とてもエネルギーを必要とするものです。必要性や状況に応じて、文章以外

学 生 相 談 室
だ よ り 110
カウンセラー **矢部浩章**

外の相談方法を充実させることも必要です。

秋セメスターは、メール相談・オンライン相談、そして電話相談に加えて、十分に感染対策を講じた上での対面相談も受け付けています。多くの学生が、自分に合った形で、学生相談室を利用してくれるのをお待ちしております。